鹿児島県立埋蔵文化財センター
Kagoshima Prefectural Archaeological Center

埋文だより

第７７号
平成３０年１０月３１日発行

中世の人々の想い

宇都上遺跡（志布志市）

投げ入れられた五輪塔

宇都上遺跡は志布志市安楽にあり，すぐ北西側は安楽川に面している縄文時代から中世までの遺跡です。

発掘調査は６月から始まり，中世の陶磁器や土坑，縄文時代の集石や土器・石器などが出土しています。中でも遺跡の北側で発見された大きな土坑からは，多数の大きな円礫に混ざって，五輪塔が数点出土しました。五輪塔とは，球や四角錐，四角柱の石などを５段に積み上げた中世のお墓，もしくは供養塔のことです。この土坑と五輪塔の関係は調査中ですが，当時の人々が何かしらの想いをもってこの大きな穴に五輪塔や石を投げ入れた（廃棄した？）のでしょう。他にも中国から輸入された「青磁」と呼ばれる碗や皿のかけらも見つかりました。

目　次

・中世の人々の想い（宇都上遺跡）……１
・発見！発掘速報……２・３
・上野原遺跡今昔⑥……４
・現地説明会（春日堀遺跡）……５
・百聞は一見にしかず（埋蔵文化財研修）……６

発見！発掘速報

今年度も，発掘調査を行っています。県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…（公財）鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センターの発掘調査

明治時代にも使われた大溝
～鹿児島城跡（鹿児島市）～

長く続く大溝

今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」では，鹿児島城も物語の舞台として登場しています。外観に関しては，正面に御楼門，右側に多聞櫓（細長い建物で鹿児島城では「御兵具所」と呼ばれていました），左側には城壁や御角櫓が並んでいる様子がCGで再現され当時の雰囲気を感じさせます。

今年度は多聞櫓が建っていた箇所の発掘調査を行いました。幕末期の多聞櫓は石垣に沿ってL字状に建てられ，武器庫として使用されていたと考えられており，「御兵具所」と呼ばれていました。調査では，切石列や円形に礫を配したもの，溝状に掘った所に礫を充填させた布基礎など多種の基礎構造が確認できました。切石列は多聞櫓の外周部分の基礎で，一昨年の調査でも検出されています。他の基礎構造については、多聞櫓の基礎になるのか，多聞櫓の改築があったのか等，今後詳細な検討が必要です。今年度はさらに、本丸庭園があった箇所や堀の中の調査も行う予定です。

上空から見た調査区

多聞櫓の基礎構造

道？堀？用途不明の溝
～原村遺跡（曽於市）～

原村遺跡は，曽於市末吉町南之郷に所在し，縄文時代早期，後期，晩期，古代，近世の遺構・遺物が発見されています。平成29年度から調査を行っており，今年で２年目になります。

今年度の調査では，縄文時代早期（約10,500年前）の様々な型式の土器（加栗山式・吉田式・石坂式土器）や木の実をすりつぶすのに使われたと思われる磨石や石皿などが見つかっています。また，大分県の姫島で産出される黒曜石が複数見つかり，当時から離れた地域との交流があったことがうかがえます。さらに，近世の溝状遺構が４条見つかっています。長いものでは長さ40m以上あります。

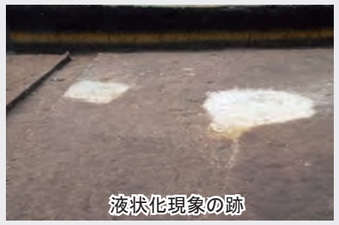
縄文時代晩期の土器

発見された溝

縄文時代早期の調査

石皿出土状況

巨大地震に伴う液状化現象の跡
～木森遺跡（志布志市）～


液状化現象の跡

木森遺跡では，今年度の調査で縄文時代早期（約10,500年前）の集落跡や中世（約700年前）の建物跡が見つかりました。縄文時代早期の調理施設と考えられる集石遺構や連穴土坑などが多数発見されています。

アカホヤ火山灰層直下の砂層

また，鬼界カルデラの火山噴火（約7,300年前）に誘発された巨大地震に伴う液状化現象の跡が発見されました。液状化現象の跡と考えられる砂層は，鬼界カルデラの火山噴火の際に積もったアカホヤ火山灰層の下の部分に堆積しています。液状化現象は，水を含んだ砂質の地層が，地震の際に液体と共に噴き出す現象です。近くの春日堀遺跡でも同様の砂層が見つかっています。このことから鬼界カルデラ噴火に誘発された地震があったことが分かりました。

大型の堀で守ったものは？
～荒園遺跡（大崎町）～

本年度の調査で，平成26年度の調査時に確認された堀跡の延長部分が発見されました。幅は約３メートル，深さ約1.5メートルでした。遺構の形状は，西側の角度が約45度で，東側はほぼ垂直に掘られていました。このような遺構は片薬研堀と呼ばれるものです。遺構の埋土上面に874年に開聞岳から噴出した火山灰（紫コラ）が堆積していたことから，古代以前の遺構であると考えられます。残念ながら，埋土中から時期を特定できるような遺物の出土はありませんでした。

調査状況

片薬研堀

2個並んだ青銅製の鈴が出土
～六反ヶ丸遺跡（出水市）～

六反ヶ丸遺跡は出水平野を流れる米ノ津川の右岸，標高約６ｍの自然堤防上にあります。調査区内のやや小高い場所に掘られた土坑付近から青銅製の鈴が出土しました。しかも２個並んだ状態で発見され，隣り合った鈴は吊り下げ部が同じ方向を向いていました。

深さ約５cm程度の土坑上面付近からの出土であり，大切にしていた２個の鈴を紐で結び，ていねいに埋めたのかもしれません。同じ土坑から江戸時代の碗も出土していることから，この頃に使われていた鈴ではないかと考えられます。県内でも鈴の出土は珍しく，ほぼ完全な形での発見は貴重な資料となりました。

鈴出土状況

青銅製の鈴

上野原遺跡今昔

⑥上野原遺跡と鹿児島の遺跡
～埋文だよりからみる鹿児島の歴史～

上野原遺跡の発掘調査の歴史は，鹿児島県立埋蔵文化財センターの設立とほぼ同時期になります。

平成４年４月，埋蔵文化財センターは現在の霧島市国分上野原縄文の森ではなく，旧姶良郡姶良町平松に開所しました。上野原遺跡をはじめ，鹿児島県内で多くの遺跡が発掘調査され，今なお調査は続いています。今回は，これまでの「埋文だより」の表紙を飾ってきた鹿児島県を代表する多くの遺跡を振り返ってみます。

創刊号　埋蔵文化財センター開所
第２号　埋蔵文化財との出会いを
第３号　配石遺構（西丸尾遺跡）　３号まではB5版です。
第４号　旧石器の陥し穴（仁田尾遺跡）　４号からはA4版です。
第５号　土偶と壺形土器（上野原遺跡）
第６号　発掘体験（上野原遺跡）６号，７号はカラーになりました。
第７号　シラス台地（上野原遺跡）　第８号　平成７年度の調査
第９号　3,000年前の人骨（柊原貝塚）
第10号　竪穴式石室（鳥越１号墳）　第11号　平成８年度の調査　第12号　縄文早期の集落（前原遺跡）
第13号　人骨の出土（中尾遺跡）　第14号　復元集落（上野原遺跡）

※平成９年までの５年間をピックアップしました。

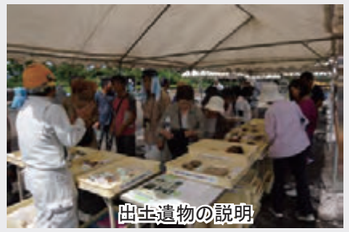
遺跡公開！
現地説明会開催
春日堀遺跡

春日堀遺跡は，志布志市有明町蓬原に位置する縄文時代から室町時代にかけての遺跡です。東九州自動車道の建設に伴って，平成26年度から発掘調査を行ってきました。

平成30年度の調査では，縄文時代早期（約１万年前）の集落跡や室町時代（約600年前）の堀跡など重要な遺構が発見されました。

竪穴住居跡の説明

薬研堀跡の説明


出土遺物の説明

連穴土坑の説明

これまでの調査成果を広く県民の方々に知っていただくために，平成30年８月25日（土）に遺跡の現地説明会を開催しました。当日は，県内外から220名の見学者が遺跡を訪れ，遺跡や出土品の見学，土器洗い体験等を行いました。

本号では，平成30年度に発見された縄文時代早期の集落跡や室町時代の堀跡について紹介します。

縄文時代早期の調査成果

竪穴住居跡と連穴土坑

約１万年前の集落跡が発見され，これまでに，竪穴住居跡21軒，連穴土坑64基，集石292基，土坑120基，石器製作跡４か所が確認されています。

住居跡は標高が高く水はけの良い場所に，調理施設である連穴土坑や集石は緩やかな斜面に造られており，縄文時代早期の集落造りの工夫をうかがい知ることができます。連穴土坑は燻製を作るための施設と考えられており，春日堀遺跡は，連穴土坑が県内で一番多く発見された遺跡となりました。

薬研堀の検出

集石検出状況

連穴土坑検出状況

室町時代の調査成果

台地の東端で幅３ｍ，深さ1.5ｍの堀が発見されました。このＶ字形の堀は薬研堀と呼ばれ，室町時代（約650年～440年前）に防御用として造られたものと考えられます。かつて，遺跡の眼下を流れる菱田川が，大隅国と日向国の国境であったといわれており，遺跡周辺では楡井氏や島津氏，肝付氏などの有力な武士が大隅半島の支配をめぐり争っていました。堀跡は，遺跡の南側にある天守城跡の方向に延びていくため，城に関連する防御施設である可能性もあります。

百聞は一見に如かず

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは，児童・生徒をはじめ，教職員や市町村の専門職員の皆さんを対象とした研修や体験学習を開催しています。今年も，たくさんの方がいろいろな活動に積極的に，そして楽しみながら参加して，多くのことを学んでいかれました。

パワーアップ研修 先生のための考古学講座

夏休みの期間を利用して，学校の先生方を対象とした研修が行われました。初めての作業に戸惑いながらも，授業をするときと同じように真剣に取り組む姿はさすがと感じました。来年度，研修の対象になっている先生方，ぜひ参加してみてください。いろいろな体験などが，知識の幅を広げ授業の充実につながったことと思います。

感想（抜粋）

☆教科研修では体験できないことや聞くことができない話や知識を得ることができました。歴史を探る考古学の面白さを実感しました。

☆遺物についてとても熱く語られる職員の方々の姿に，こちらも自然と引き込まれ興味が高まった。自分も子どもたちにその思いを伝えられる存在でありたい。

☆縄文時代のことや地域教育の新しい視点を得ることができた，有意義な２日間でした。この研修を今後の教育活動にしっかりと活かしていきたいと思います。

埋蔵文化財 専門職員養成講座

市町村教育委員会の職員の方々を対象とした講座で，基礎と中級の2回開催しました。整理作業や発掘調査の方法･技術はもとより，写真撮影や実測等の基礎的な知識や技能などを詳しく理解する機会になりました。今後の業務で活かされることと思います。

アンケート結果（抜粋）

☆実際に実技の時間が確保されてよかったです。

☆初めての業務も体験できて，今後に生かしていけると感じた。

☆整理作業の時間がもう少し欲しかった。中級も受けてみたいと思う。

☆ただ講義だけでなく，体験も交えた中で知らない発見もあり，勉強になった。自己啓発に役立てたい。

☆一つひとつの研修をもう少し時間をかけてじっくり取り組みたい。

☆各市町村によって多様な課題を抱える現状で，個別に取り上げてくれたことはありがたい。

☆発掘現場での具体的な調査に時間を割いていただけたので，より具体的に研修を積むことができた。

当センターの見学は，土曜・日曜・祝日・年末年始を除き，毎日午前９時～午後５時まで，入館料は無料です。

なお，当センターのホームページは，鹿児島県（http://www.pref.kagoshima.jp/）または，上野原縄文の森(http://www.jomon-no-mori.jp)，ＱＲコードからお入りください。

検索キーワード　上野原縄文の森　検索　クリック

埋文だより　第77号
発　行　日　平成30年10月31日
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:http://www.jomon-no-mori.jp
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp